

安全データシート

イソ酪酸

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : イソ酪酸
CB番号 : CB3367722
CAS : 79-31-2
EINECS番号 : 201-195-7
同義語 : イソ酪酸, 2-メチルプロパン酸

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 極性溶媒、ジイソプロピルケトン合成の出発物質、除草剤、塩類は繊維織物化学製品、皮なめし剤、安定化剤、触媒及び促進剤、エステル類は、香水の溶媒及び航空機タービン用の特殊オイル
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H22.3.16、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用

物理化学的危険性

火薬類 分類対象外
可燃性・引火性ガス 分類対象外
可燃性・引火性エアゾール 分類対象外
支燃性・酸化性ガス類 分類対象外
高圧ガス 分類対象外
引火性液体 区分3
可燃性固体 分類対象外
自己反応性化学品 分類対象外
自然発火性液体 区分外
自然発火性固体 分類対象外
自己発熱性化学品 分類できない

水反応可燃性化学品 分類対象外

酸化性液体 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

有機過氧化物 分類対象外

金属腐食性物質 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分3

急性毒性(経皮) 区分3

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない

皮膚腐食性・刺激性 区分1

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分1

呼吸器感作性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖毒性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

吸引性呼吸器有害性 分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 区分3

水生環境慢性有害性 区分3

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS05	GHS06

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H226 引火性液体及び蒸気。

H302 飲み込むと有害。

H311 皮膚に接触すると有毒。

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

H402 水生生物に有害。

注意書き

安全対策

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P233 容器を密閉しておくこと。

- P240 容器を接地しアースをとること。
- P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。
- P242 火花を発生させない工具を使用すること。
- P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
- P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
- P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

応急措置

- P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。
- P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P361 + P364 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

- P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- P405 施錠して保管すること。

廃棄

- P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C4H8O2
分子量	: 88.11 g/mol
CAS番号	: 79-31-2
EC番号	: 201-195-7
化審法官報公示番号	: 2-608
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後は水を飲ませ(多くてもグラス2杯)、嘔吐を避ける(穿孔のリスクあり)直ちに医師を呼ぶ。中和させようとしないこと。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

二酸化炭素 (CO₂) 泡 粉末

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

高温で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 3: 可燃性液体

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが出入りができる場所に入れておく。保管安定性推奨された保管温度-20 °C悪臭がある。不活性ガス下に貯蔵する。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のために

適用される。溶解、他の物質との混合、および EN374 に記載の逸脱条件での使用については、

CE 認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと (例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.7 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Butoject® (KCL 898)

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみに適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

www.kcl.de)

飛沫への接触

材質: クロロブレン

最小厚: 0.65 mm

破過時間: 30 min

試験物質: KCL 720 Camapren®

身体のプロテクト

難燃静電気保護服。

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色透明
臭い	酪酸様の不快な刺激臭 : Merck (14th, 2006)
pH	データなし
-47 °C : Chapman (Ver.17:1, 2009)	
154.45 °C : Lide (88th, 2008)	
56 °C : HSDB (2008)	
481 °C : Chapman (Ver.17:1, 2009)	
データなし	
2.0~9.2 % : Lide (88th, 2008)	
1.81 mmHg (25 °C) : HSDB (2008)	
3.04 (空気=1) : ホンメル (1996)	
データなし	
0.95 (20 °C/4 °C) : Merck (14th, 2006)	
20 g/100 mL (20 °C) : ICSC (2002)	
アルコール、クロロホルム、エーテルに可溶 : Merck (14th, 2006)	

log Pow = 0.94 (exp) : Howard (1997)

データなし

1.226 mPa·s (25 °C) : Lide (88th, 2008)

データなし

データなし

データなし

融点・凝固点

-47 °C : Chapman (Ver.17:1, 2009)

沸点、初留点及び沸騰範囲

154.45 °C : Lide (88th, 2008)

引火点

56 °C : HSDB (2008)

自然発火温度

481 °C : Chapman (Ver.17:1, 2009)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

2.0~9.2 % : Lide (88th, 2008)

蒸気圧

1.81 mmHg (25 °C) : HSDB (2008)

蒸気密度

3.04 (空気=1) : ホンメル (1996)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

0.95 (20 °C/4 °C) : Merck (14th, 2006)

溶解度

20 g/100 mL (20 °C) : ICSC (2002)

アルコール、クロロホルム、エーテルに可溶 : Merck (14th, 2006)

オクタノール・水分分配係数

log Pow = 0.94 (exp) : Howard (1997)

分解温度

データなし

粘度

1.226 mPa・s (25 °C) : Lide (88th, 2008)

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

蒸気/空気混合物は、強く温めると爆発性となる。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

次と激しく反応

イソシアネート

塩基類

アミン

ニトリル

酸化剤

還元剤

金属

10.4 避けるべき条件

熱、炎、火花。

加熱

10.5 混触危険物質

アルミニウム, 亜鉛, 金属, (水素の発生)

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットを用いた経口投与試験のLD50 280mg/kg (JECFA No.40 (1998)、PATTY (5th, 2001))から、区分3とした。

経皮

ラットを用いた経皮投与試験のLD50 >200 mg/kg (SIDS(J) (Access on Aug. 2009))及び500 mg/kg(PATTY (5th, 2001))から、区分3とした。

吸入

吸入(ガス): GHS定義における液体である。

吸入(蒸気): データがなく分類できない。なお、飽和蒸気(8.6 mg/L (25 ℃):推定)、8時間の吸入試験(動物種不詳)で死亡はなかった(PATTY (5th, 2001))との記述がある。

吸入(粉じん・ミスト): データなし

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた皮膚刺激性試験(開放)において24時間以内に壊死(caused some necrosis)の結果(PATTY (5th, 2001))及びウサギを用いた試験(BASF-test)で腐食性あり(IUCLID (2000))との記述から、区分1とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

皮膚腐食性があるため、区分1とした。なお、ウサギを用いた眼刺激性試験において非常に強い角膜炎症(Severe corneal burning)(PATTY (5th, 2001)、刺激性(irritating)(IUCLID (2000))及び中等度の強い初期刺激性(moderately severe primary irritant(HSDB (2008))ありとの記述がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データがなく分類できない。 HSDB (2008)に感作性はないとの記述があるが、詳細は不明である。

皮膚感作性:データがなく分類できない。 HSDB (2008)に感作性はないとの記述があるが、詳細は不明である。

生殖細胞変異原性

in vivo変異原性試験のデータがなく、分類できない。マウスリンパ腫を用いた遺伝子突然変異試験 (JECFA 40 (1998))で弱陽性(活性化なし)及び陰性(活性化あり)、ラット肝細胞を用いた不定期DNA合成試験 (JECFA 40 (1998))で陰性、微生物を用いた復帰変異試験 (IUCLID (2000))で陰性の結果が得られている。

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

大気中のイソ酪酸は上気道に刺激を引き起こす。反復吸入ばく露は刺激影響を悪化させるようである(SIDS(J) (Access on Aug. 2009))との記述から区分3(気道刺激性)とした。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

上気道に刺激を引き起こし、反復吸入ばく露は刺激影響を悪化させるようである(SIDS(J) (Access on Aug. 2009))との記述はあるが、詳細は不明であることから分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

止水式試験 LC50 - *Leuciscus idus* (コイの一種) - 146.6 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

止水式試験 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 51.25 mg/l - 48 h

藻類に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

微生物毒性

止水式試験 EbC50 - *Desmodesmus subspicatus* (緑藻) - 45.1 mg/l - 72 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

備考: (IUCLID)

12.2 残留性・分解性

生分解性

結果: 100 % - 易分解性。

(OECD 試験ガイドライン 301E)

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

データなし

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：2529 IMDG（海上規制）：2529 IATA-DGR（航空規制）：2529

14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：ISOBUTYRIC ACID

IMDG（海上規制）：ISOBUTYRIC ACID

IATA-DGR（航空規制）：Isobutyric acid

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：3 (8) IMDG（海上規制）：3 (8) IATA-DGR（航空規制）：3 (8)

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当
非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

アルミニウム, 亜鉛, 金属, (水素の発生)

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

消防法

第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

船舶安全法

引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

港則法

危険物・引火性液体類(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二ホ)

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。